

令和3年度 第1回安城市総合教育会議 会議録【要約】

日 時 令和3年8月19日(木)
午後2時55分から午後4時5分
場 所 教育センター2階 会議室
出席者 市長 神谷 学
教育委員会 石川 良一 教育長
加藤 滋伸 教育長職務代理者
伊奈 希 委員
久恒 美香 委員
深津 敦司 委員

出席する職員 武智 仁 企画部長
横山 真澄 企画部行革・政策監
宮川 守 教育委員会教育振興部長
永井 教彦 教育委員会生涯学習部長
仲道 雄介 企画部健幸=SDGs課長
長谷部 朋也 教育委員会総務課長
稲留 雄一 教育委員会学校教育課長
中屋敷 俊幸 企画部健幸=SDGs課課長補佐
澤田 敦至 教育委員会総務課課長補佐
早川 慎 教育委員会学校教育課課長補佐
杳名 智和 企画部健幸=SDGs課企画政策係長
小笠原 沙世 企画部健幸=SDGs課企画政策係専門主査

傍聴者 なし

次第

1. 開会

2. 市民憲章唱和(省略)

3. あいさつ(要旨)

神谷市長：愛知県において蔓延防止等重点措置が実施されている中、教育委員の皆さんにおかれては、教育現場にまで猛威が及ぶ恐れのある新型コロナウイルス感染症対策について、御理解、御支援をいただいていることに、この場

を借りてお礼を申し上げます。

本日の議題は、「G I G Aスクール構想の推進状況について」としている。

またそれ以外の教育行政に対して、日ごろから感じていることについて、率直な御意見をいただきたい。

議題とはしていないが、児童生徒や教育関係者の新型コロナウイルス感染症の近況について、事務局から報告してもらうこととしている。

石川教育長： 市長においては、日ごろより教育行政に関して、大変な配慮、支援をいただいていることを深く感謝申し上げます。

とりわけ本日の議題にあるG I G Aスクール構想については、市当局の力強い支援をいただいております、感謝するしかない。お礼を申し上げます。

これからの未来の安城市の教育の充実に向けて、いろいろな視点から、意見交流ができることを期待している。

4. 議題

議題（1）「G I G Aスクール構想の推進状況について」

学校教育課長説明する。

神谷市長：ただいまの説明に対してのご意見、ご質問等をいただきたい。

伊奈委員：親御さんの意見を聞いたものをまとめてきているので、現状を率直に述べさせていただきたい。

まず、私自身がこの学習におけるタブレットで望むことは、子供たちの何を育てるために使用するのかということをも明確にしてほしいということである。例えば、先ほどの説明の中で用いられた写真の中に、木を観察して写生するというものがあった。写真をタブレットで見て絵を書くというのは、絵具を使うというような技術を高めるためにはとてもいいと思うが、子供たちの感性を育てるためであれば、やはり実際のものを見てやっていただきたいと思う。どちらをメインにして先生が考えられて、使用するのかということをお考えながら使っていただけるとありがたい。

2つ目に、とにかく子供たちが楽しく授業ができるツールであってほしいということである。これが子供の苦手意識を増やしてしまい、学校が嫌になるということになってしまうのが少し心配である。

最後に、キャリア教育を意識した道具であってほしいということである。小学校1，2年生が働く頃になって、タブレットを使うかどうかはわからないところがある。そのため、無理に使わせる必要もないと思う。使用回数は小学生と中学生と違っているが、それもそのままいいと思うし、使用回数

にこだわらずに、子供たちの成長にどう役立っているかを見据えたタブレットの使用であってほしい。

その他、保護者や子供たちの意見を聞いたので、少し述べさせていただきます。

まず高評価のものである。

先ほど説明のあったT e a m sの利用でL I N Eでのトラブルが減って、親も安心している。T e a m sだと、先生に見ていただけるということがあるので、ありがたい。また、会議のときにはZ o o mのようにミュートにしなくても、つぶやきのように声を拾えるのでとてもよい。

次に授業での活用である。美術や家庭科の手本を動画で手元まで見ることができ、家での復習にも役立っている。

次にネット検索機能であるが、辞書のように使ったり、調べものなどで学習において手早く検索できるのはもちろんであるが、中学3年生は私立高校の体験入学を学校でもネット申し込みができ、とても助かったという意見をいただいている。

eライブラリーは、以前から活用しているアプリであるが、授業の空き時間にやることができ、小学校などは読書と自由帳以外にやることがなかったが、選択肢が増えて喜んでいる。

その他のアプリでお絵描きや世界地図アプリなど、多様なアプリが楽しくてうれしいという意見もあった。

次に、困っているという意見を述べさせていただきます。

タブレット本体についてであるが、あまり使っていないのに、重い荷物が増えて、低学年は特にかわいそうである。持ち運ぶのは教科書かタブレットか、どちらかにしていただけるとよい。学校では教科書も入りきらない机を使っているが、タブレットはもちろん机にしまえないので、すぐに使うことができないという意見もあった。

また、T e a m sの利用について、学校連絡がタブレットだけだと受け取れないことがある。例えば、タブレットの充電が切れたままになっていたり、タブレットを毎日チェックしていなかったりということがある。また、夜10時から朝6時まで使えないということだと、中学生は塾で10時以降まで家にいないこともあるので、そうすると見ることもできない、朝起きてちょっと確認して終わりということになってしまうこともある。できればT e a m sの連絡の内容を保護者のメールにもいただけるととてもありがたい。

Y o u T u b eの利用については、今回夏休み期間中、Y o u T u b eを止めていただいていたありがたいという言葉はたくさん聞こえるが、Y o u T u

b eはやはり見続けてしまうので困っているという声が以前からある。タブレットを学校保管する市もあるため、安城市もそうしてほしいという意見もあった。

タブレットの運用がこれからの今は、タブレットが原因で家族の中でトラブルになったり、困っている家庭の方が多いように感じた。

今中学2年生、3年生の子であると、このG I G Aスクール構想だと間に合わない感じがある。なるべく早く、中学2年生、3年生がタブレットによる印象を持った状態で中学を卒業してもらえらるような状態を作ってもらえらるとありがたい。

今回、いろいろな授業でタブレットを使用しているのを聞いて、多くの先生方が工夫しているのもよくわかった。安城市全体の子供たちが楽しく授業を受けられることを大いに期待している。

久恒委員：早い段階でのタブレット導入を感謝する。いろいろな活用方法で子供たちの学びが深まると期待している。

先ほどの話の中で感じたところは、実体験を大事に教育をしてほしいということである。

音楽などは生の音とタブレットから聞こえてくるものは全く違うとは言わないが、多分本物とテレビでみるものとは違うということと同じで、実際のものとは違うので、そういった体験をできるようにしてほしい。友達の絵を写真に撮ったものを見て書くというのは、時間の短縮になったりずっとモデルをしている子のことを考えると、それはとてもよいと思うが、例えば写真や絵を見て上手にまねるのが勉強ではなくて、本物を見て本物らしく書くというのが授業のやりたいところではないかと考えた場合は、生のものを見て書くという方がいいと思う。写真を上手にまねる、本物のように書くのか、生のものを書くのか、どちらにするかを先生や生徒が考えて選択してほしい。

また、簡単に調べ物ができるようになっていると思うが、何が正しい情報でどれがそうではないのかという、情報を選び取る力をつけるように、教育の中で指導してほしいと思う。

鉛筆でノートに書くということが減ってくると思うが、実際には人生において、鉛筆でノートに書くことは必要なことであるので、特に低学年などはきちんとノートに書く経験を積めるように、授業の中で組み立ててほしいと思う。

最後に、健康にも少し感じる場所がある。ネット依存症になる子もいると思うし、視力低下もあるのではないと思う。そういったことも学校の保健の先生などが指導してほしいと思う。

今後文房具の一つとして上手にタブレットが使えるようになるとういと思う。

加藤教育長職務代理者：このGIGAスクールで1人1台の端末が配られて、いろいろな課題が出ているということである。最初はやはりいろいろな課題が出てくるだろうと思う。課題は多いけれども、とにかくまずは使ってみて、効果的なものはどのようなものであるかなど、やりながら検証していくしかないだろうと思う。今いる生徒はこれで終わりだという、伊奈委員からのお気持ちもよくわかる。最初から完璧を期してもらいたいというのが保護者の率直な意見だろうと思うが、いろいろやりながら試行錯誤しながら、効果的な使い方をまずはやってみてくしかないだろうということを持っている。先ほどの説明の中で、今、積極的に活用しているというのは大変ありがたいと思っている。

端末の使い方は、大きく三つあると思う。

1つは授業で効果的な活用をしていくということである。これに関しては、今いろいろな授業での活用の他、オリンピック選手との交流にも使っているが、そういった課外活動的なことや行事的なことでの活用も含めて、教育活動の中での活用の仕方、これが一つ大きなもので、これも今年からやっていると思う。これについては、先生たちが工夫をしていると思うので、大事なことは情報交換を積極的にすること、うまくいったこと失敗したことも含めて情報共有をしていく、その蓄積が大事だろうと思う。先生たちが情報交換しやすい、聞きやすい環境をつくるのが大事である。

次に、家庭とのつながりについてもあった。情報発信について、今までは文書を配布していたところを、今はタブレットと両方でやっているということのようである。学校あるいは担任と家庭とのつながりを、個々の機器を通じてうまくやっていくための工夫も大事なことだろうと思う。

3つ目としては、1番活用するのは授業での活用ということであると思うが、家庭に持たせているということは、家庭学習を支援するという意味があるということであるか。

学校教育課長：基本的にはタブレットがないと授業ができないということではないというのが大前提で、持ち帰ったときに、自分で調べてみたいというようなことがあるときに活用できるように持たせている。

加藤教育長職務代理者：自分で調べ学習をするなど、家庭でどういうふうに使おうかという指導をしていると思う。どのような使い方があるのかを、いろいろな情報を得ながら整理するとよいと思う。

たまたま、石川県七尾市の中学校長と電話で話をする機会があった。その中学のホームページを確認すると、家庭学習支援のコーナーがあった。

そこで、例えば英語のところを開くと、使用している教科書の会社が公開しているページにリンクをしていて、ページを開くとその単元の英語が流れるようになっていた。動画や発音も出てきて、自分で家庭で見られるようになっており、各教科でリンクをしていた。いろいろなところとうまくリンクをして、自分で家庭学習がやれるような工夫をしていけるとよいと思っている。

お願いになるが、先ほど各家庭のWi-Fi設置状況について、要・準要保護家庭を除いた家庭のうちWi-Fi環境なしが327人、2.0%とあった。要・準保護家庭のうちWi-Fi環境のない53人については、希望する家庭にWi-Fiルーターを貸与するということであるので、327人という数字をゼロにできるようにお願いしたい。

深津委員：まず、こういう新しい時代に即した機器がみんなに配られるということは、非常に重要なことだと思う。どんどん活用していくべきだとは思いますが、幾つか、いい点、悪い点があると思う。

少し気になったのが、例えば先ほどの説明の中で、植物の成長過程をタブレットに記録する、撮影した木の写生をする、友達の顔を撮影してそれを書くというのがあったが、実際は自然観察というのは、現実のものを見ないと間違いの基になると思う。例えば、木の写生をしていて細かいところがわからなければ、実際に見てそれを書かないと、恐らくそのいわゆる観察眼、科学的な観察の目というのができないと思う。写真を撮って顔を書くというのは、おそらく実際に見て顔を書くより、逆に難しいのではないかと思う。実際には、表情があり、表情が変化する、そういうところを見ながら書くということが、科学的には大事だと思う。

植物についても、目で見て変化を見て、それを手を使って絵に書くという、目と記憶と手の動きで観察を行うということがとても大事だと思う。写真という二次元的なものを見て、それを判断するのはかなり違う。そういう点を少し気をつければ、非常に有用なツールだと思う。

また、例えば英語の授業でも国語の授業でもいいが、決まったことを聞いて覚えるよりも、実際にインタラクティブに話をしたほうが良いと思う。例えば、安城市であれば姉妹都市がある。デンマークのコリング市であれば、お互い英語は母国語ではないので、母国語ではない言葉で話し合うようなことがタブレットを活用すればできると思う。そのようなことを考えてもらえるとよい。

最後に、目のことであるが、3年程前に講演を依頼されて、コンピュータは目に悪いのではないかという意見があったので、いろいろなペーパーを調べた。そうすると、世界的な論文では、目に悪いというのはほとんどない。

1つは、このような視覚の研究しているところにお金を出すのがコンピュータ会社だということがある。ただ、実際に論文を見てみると、視力はよくなるとある。経過を見ていくと、視力はよくなる、拳銃を打つゲームをやっていると動体視力がよくなるということである。老人だと、車を運転しているときに人が飛び出してきたときの判断がよくなるというデータがある。

また、東北大学の川嶋教授の論文が四、五年前に出ている、3年ぐらいの研究で、コンピュータをずっとやっていると言語に関する脳の発育が悪くなるという研究結果もある。

それらを全部読み比べると、1つ共通することがあり、大体1日1時間以内であればむしろ良いというのが、論文を読んだ私の結論である。1時間以内であれば視力や動体視力がよくなるという効果はどうもありそうである。川嶋教授の研究では大体4時間ぐらいであるが、長時間やるといろいろな弊害が出てくるのではないかと私は結論を出した。決して目に悪いことばかりではないと思う。時間の方が問題かもしれない。

石川教育長：G I G Aスクール構想を進める立場で話を伺う中で、もっともだと思ふところもあり、今までもこのような話をしてきた。とにかくやってみないとわからないことばかりで、最初から結論がわかっている、いろいろなことがわかっているならそんな楽なことはないと思う。I C Tの先進国、例えば韓国や東南アジア、北欧の方は非常に進んでおり、参考になる事例はたくさんある。そういうところで、日本人が今先を読んで心配しているようなことが起こっているかという、あまり起こっていない。それはどういうことかと自分なりに読んだり調べたりしていくと、やり方ではなく、むしろその国の文化や考え方の質のような、日本人だからなってしまうとかヨーロッパの感覚だからこういう問題が起きにくいとか、そういうことは見えてくる。そのため、他国のやり方をそのまままねしようということは、余り芳しくない自分には感じている。1つ1つを丁寧にやっているだけの時間が自分にはなかなかないが、今皆さんが言われたところなど、いろいろなことを聞くごとに問題意識は持っており、自分なりにどうしようかというのは感じているところであるので、いろいろなご意見をお聞きしたいと常に思っている。

神谷市長：それぞれの立場から貴重な御意見をいただいた。

先ほどから意見が出ているように、やはり鉛筆を使うなど、そういうことも大事だということを、何かの本で読んだことがある。

パソコンを使っていろいろなことを勉強しても、結局、このソフトにこの情報があるから、わからなくなったらそこを見ればいいという安心感があり、結果パソコンの機器だけで学習していると、スイッチを切った瞬間に、

何を勉強したかということ自体は頭の中に残らない。ただ、あそこに情報があるから、パソコンを開いてそこを見ればわかるということはわかっているが、中身がどこまで頭の中に定着したかという点で非常にあやしい状況になってしまうということである。しかし、鉛筆を使って手を動かしたり、あるいは口を使って朗読したり復唱したりしていると、記憶に残りやすい、体を使って勉強をすると身に付きやすいということ、本か何かで見た記憶がある。こういった先端機器を使うということは非常に重要なことだと思っているが、合わせて、これまで積み重ねてきた伝統的な教育も大事にしてほしいと思う。

また、小、中学校の段階であるので、これからタブレットを使って自分がどんな仕事をしていくかという方向にはまだ行けないため、基礎的なことを勉強していると思う。今の段階では、いろいろなことをひと通りやっていくということだと思うが、やがてその子が例えばグラフィックのソフトを中心に勉強していくのか、あるいは表計算みたいなものを中心に勉強していくのか、そちらの方の伸ばし方はもう少し課題になってくるような気がする。あまり早い段階から特定のソフトに入り込んでしまうと、他の可能性のことがわからなくなるため、そこは難しいところではあるが、子供たちにはとらえず、こういうソフトがあるということ、その中で、将来的にこういうソフトを使うと、こんなことができていくということ、うまく教えていただけるとありがたい。

次に、新型コロナウイルス感染症の状況について説明をお願いします。

学校教育課長説明する。

神谷市長：深津委員、医師の立場からご意見やアドバイスををお願いします。

深津委員：5月の連休明けの第4波と今回の第5波は、それ以前と全く変わってきており、主にデルタ株の影響だと思うが、家族内全員が陽性というのが結構多くなっている。現在の状況を非常に不安に思っており、意識している。

特に新学期が始まったとき、今までは学校内でクラスターが起きることはまずはないと思っていたが、可能性的には十分あり得るので、やはり注意が必要である。窓を開け放しておくなど、配慮が必要に思う。

また、これは現実的に証明されていないが、ワクチンを打った高齢者がどこかに出かけて、自分は感染しても発症はせず、家族にうつしてしまうということがありそうである。新学期が始まってからのことについて、十分いろいろな対策を練っておく必要があると思う。

神谷市長：保護者の夏休みがお盆中心にあったと思うが、その時期に帰省した、家族で旅行に出かけたというのは去年に比べて多いのではないかという話がある。発症というのはいつ頃から始まるのか。

深津委員：10日～2週間後がピークになると思う。これから月末にかけて出てくる可能性がある。

株によってはわからないが、10代については、重症化は少ないといわれている。20代、30代は重症化が出ているが、10代は重症化が少なく、命の問題や後遺症の問題も少ないと思う。ただ、感染が家族に広がったりするため、厳重な注意が必要だと思う。

神谷市長：子供は陽性になっても元気でうちで過ごせるのかもしれないが、その家族に感染が出てしまうと、保護者が子供の世話ができなくなってしまうということがあると思う。子供に対する注意喚起はもちろんであるが、保護者自身も知らないうちに子供がウイルスを持ち帰ってきてしまうというケースも考えられるので、保護者に対する注意喚起も必要だと思う。

学校の休校や学級閉鎖というのは、何を基準にそういう措置をとるのか。

学校教育課長：これまでの休校については、濃厚接触者が特定されない場合、その特定のために基本的には3日間ぐらい消毒も含めて休校するということがあった。今後、感染が広がってくると、インフルエンザ同様にいうと、例えば2割、3割ぐらいに感染者が出ると学級閉鎖ということが考えられると思う。ただ、まだ具体的な数字は出ていないが、それと合わせて考えれば、2割強から校医と丁寧に相談をして、決定していくということになると思う。

神谷市長：これまで以上に校医との連携を密にとっていただき、心配があれば、早い段階で相談をして対応をしてほしい。

5 事務連絡

6 閉会